

COMPASS

学習院大学通信

15 January 2013 vol.56



表紙写真:2012年10月26日~28日 四大学運動競技大会(武蔵大学)

CONTENTS

学習院NOW 02

- 学生の表彰について
- 第63回 四大学運動競技大会 総合優勝!
- 第43回学習院大学大学祭
- 第57回学習院大学対甲南大学運動競技総合定期戦
- 清華大学(中国)、東国大(韓国)との新規協定締結について

●平成24年度「学生の提言」受賞者について

●学生の提言 受賞作品

試験について 11

- 平成24年度 学年末試験について
- 平成24年度 学年末試験 実施日程・時間など

インフォメーション 13

- 学生センター教務課
- 学生センター学生課
- 学芸員課程事務室

- 外国語教育研究センター
- 計算機センター ●国際交流センター
- 東洋文化研究所 ●施設部 ●財務部
- 学習院生涯学習センター

キャリアアップサポート 19

- キャリアセンター

図書館へ行こう 20

- 特集 図書館資料を選定してみませんか?

ヘルス・サポート 21

- 保健センター
- スポーツ・健康科学センター
- 学生相談室

課外活動レポート 22

- 部会活動予定

修了式・卒業式・入学式日程について 裏表紙
平成25年度 学年暦

学生の表彰について

法学部法学科4年 中村 裕貴さん

●紅綬褒章

【平成24年11月13日授賞式】

●院長表彰(特別賞)

【平成24年11月9日 西5号館
6階院長室にて表彰状と副賞
を授与】

●東京都功労者表彰【平成24年10月1日】

●東京消防庁消防総監より感謝状授与【平成24年4月2日】

平成24年3月29日に多摩川で発生した水難事象に際し、生命の危機に瀕していた方を、自らの危険を顧みずに迅速的確な行動により救助し救命しました。

中村裕貴さんのコメント

このような名誉ある賞を頂くことができ、大変光栄に思っています。

人命救助をした時のことを思い返すと、とても恐ろしい出来事だったのだと今でも思います。

多摩川という水量の多い川に入り、女兒と共に流された時は、「死」という言葉が頭の中をよぎりました。一つ間違えれば私自身も命を失い、救助した女兒も助けることはできなかったと思います。そして川の怖さというものを改めて痛感しました。

ただ、この経験で人は生きることと死ぬことが隣り合わせの世界に生きていくと強く感じ、毎日を一生懸命に生きて悔いのないようにならなければならないという気持ちになりました。

大学生生活も残り少ないですが、一日一日を大切にしたいと思っています。



院長表彰



紅綬褒章

院長表彰とは

学習院の設置する各学校に在学する学生・生徒・児童・園児が、国または地方自治体その他が行う大会またはコンクールに個人または団体で参加し、優秀な成績をおさめた場合、または学習院長が、特に表彰に値すると認めた場合に表彰。文化活動賞、スポーツ活動賞、特別賞。文化活動賞は、個人または団体で参加し、学術文化の分野における国際的または全国的な大会・コンクール等において優秀な成績をおさめた場合。特別賞は、人命救助、その他学生・生徒等の模範となる行為を行い、院長が表彰に値すると認めた場合。〔学生・生徒表彰規程〕

法学部 阿部克則ゼミ

法学部4年 飯島裕紀さん、石井昌隆さん、中村悠雅さん、村松洋平さん、得直人さん
3年 神原英里さん、栗山亜沙美さん、小林慎治さん、中原葵さん、野崎藍さん、
花城和恵さん、真鍋潤子さん、丸山裕さん、利原磨美さん

●院長表彰(文化活動賞)

【平成24年11月9日西5号館6階院長室にて表彰状と副賞を授与】

平成24年8月10日から12日に開催された「国際法模擬裁判アジアカップ・ジャパンラウンド2012」の「書面原告」の部において参加14校中1位の成績を取めました。

中原葵さんのコメント

国際法模擬裁判では、共通の問題文を読んだ後、どの点を主張するか、またどのような主張をするかが各チームに委ねられています。私たちは、家族生活を営む権利や環境権、国内裁判所における国際人権条約の意義、国内裁判所が果たすべき司法上の措置といった国際法の分野でも比較的新しい論点を主張に盛り込みました。当然他大の参加チームとは全く異なる主張となりましたが、「ユニークでありながら、論理がしっかりとおり正しいことを主張できていた。そのような点が評価に結び付いた。」と大会顧問兼書面審査官の筒井若水先生に仰っていただきました。

模擬裁判終了後、裁判官の方から講評をいただいたのですが、その中で「新しい判例を作るという気持ちで大会に臨んでほしい」という言葉がありました。模擬裁判の題材は、未だ世界でも答えの出ていない最先端の論点を擁しています。国際法に限らず学部生の法律の勉強というと、決まった条文解釈や学説の対立を勉強することに終始してしまいがちですが、私たちは柔軟な思考で条文を解釈し、かつ合理的な主張を考え、新たな条文解釈、新たな判例を確立していくことを目標に、国際法の理解を深めていきたいと思っています。また、今回の入賞は書面部門のみだったので、今後の大会では弁論部門でも結果を残し総合優勝できるように、日頃から研鑽していきたいと思っています。



院長表彰



国際法模擬裁判アジアカップ・ジャパン ラウンド2012

第63回 四大学運動競技大会 総合優勝!

10月26日(金)から28日(日)の3日間の日程で、武蔵大学において、第63回四大学運動競技大会が行われました。今年度は一般種目において、僅か1点差で1位を逃したものの、正式種目・教職員種目では1位を獲得し、見事総合優勝を飾ることが出来ました。通算では52勝目となります。

●第63回 四大学運動競技大会得点表

	学習院大学	成蹊大学	武蔵大学	成城大学
総合得点 (順位)	147点 (1位)	129.5点 (2位)	111点 (3位)	104.5点 (4位)
正式種目 (順位)	101.5点 (1位)	88点 (2位)	64.5点 (4位)	65.5点 (3位)
一般種目 (順位)	45.5点 (2位)	41.5点 (3位)	46.5点 (1位)	39点 (4位)
教職員種目 (順位)	10点 (1位)	9点 (2位)	7点 (3位)	4点 (4位)

※教職員種目の得点は総合得点に含まれません。



第43回学習院大学大学祭

11月2日(金)~4日(日)に第43回学習院大学大学祭が開催されました。穏やかに晴れ渡った青空の下、今年度も様々な企画が実施されました。ピラミッド広場のメインステージに加え、今年度は西5号館1階屋内ステージを設営し、大きな盛り上がりを見せました。



今年の大学祭には約3万人が来場



夜には、イルミネーションを設置し構内を鮮やかに彩りました



個性溢れる模擬店が多数出店



西5号館1階屋内ステージではコントやミスターコンテストを開催



応援団によるアトラクションもありました



東日本大震災に関する展示企画を実施

第57回学習院大学対甲南大学 運動競技総合定期戦

4月28日(土)の開会式で幕を明けた本大会は、12月8日(土)の閉会式をもって終了しました。

結果は、13勝21敗で甲南大学の優勝でしたが、学生の皆さんがスポーツを通じて、熱い想いをぶつけ合いました。

次年度以降も皆で力を合せて、優勝目指して頑張りましょう!!



第57回甲南戦実行委員長 春木裕彰さん



本学応援団より、両校にエールが送られました

清華大学(中国)、東国大学校(韓国)との 新規協定締結について

平成24年、学習院大学では、清華大学(中国)および東国大学校(韓国)との間で交流協定が締結されました。

清華大学は、北京に所在する、1911年創立の中国最高峰の総合大学です。特に理工系分野で高い評価を受けており、中国の国家指導者に多くの人材を輩出しています。また、国際交流にも力を入れており、世界各国の留学生を受け入れたり、レベルの高い国際学術会議を多く主催しています。

東国大学校は、ソウルの中心部に位置し、1906年に創立された歴史と定評のある総合大学です。韓国の新聞が毎年発行している大学評価で、2010・2011年2年連続国際化部門で全国第5位になるなど、国際交流にも力を入れており、英語のみで開講されている授業も多く、英語での留学も可能です。

中国とは4校目、韓国とは3校目の大学間協定締結となります。これを機に、本学の海外交流が、ますます発展していくことが期待されます。

平成24年度 「学生の提言」受賞者について

本年度の学生の提言は、「新しい社会ネットワークの可能性」というテーマで募集を行ったところ、14点の応募がありました。応募のあった論文について、学長、学生センター所長、学生委員によって厳正な審査が行われ、優秀賞1作品、佳作4作品が決定しました。受賞者には、学長から賞状、ならびに学生センター所長から副賞が授与されました。

<受賞者>

優秀賞: 文学部心理学科3年

田中 昌太さん

佳作: 法学部政治学科3年

関 花奈美さん

法学部政治学科3年

西村 夏美さん

法学部政治学科3年

長谷川 裕さん

経済学部経済学科3年

田代 直樹さん



<優秀賞受賞コメント>

田中 昌太さん

「新しい社会ネットワーク」とありますが、数年後にはここで述べた「新しい」という言葉は古いものになってしまうかもしれません。これ程までにインターネットが普及するとは想像出来なかったのですから、他の物事に関しては言うまでもありません。5年後、10年後の未来が楽しくもあり、不安でもあります。

今回、名誉ある賞を頂くことができ大変光栄に思っております。また、貴重な機会を与えて頂いたことを感謝しております。有難うございました。

学生の提言 受賞作品

『新しい社会ネットワークの可能性』

田中 昌太

はじめに

1990年代の終わりに発生した急速な情報革命により、人々の認識や産業全体の構造にも変化を与えつつあった。IT(Information Technology、情報技術)という言葉が騒がれ始めたのはその頃であった。インターネットの普及により、そこにインターネットに接続できる環境さえあれば、我々はいつ何処にいても、欲しい情報を入手することが可能となった。

新しい世紀を迎え、社会ネットワークがコミュニケーションツールとして果たす役割は大きくなり、日常生活には欠かせないものとして我々の実生活の中に浸透してきた。ネットワークコミュニティの形態はここ数年で変化を遂げ、新たに登場したのがソーシャルネットワークキングサービス(以下、SNS)である。その成長には目を見張るものがある。mixi、Twitter、Facebook、GREE、LINEなど、数々のSNSが登場し、ユーザー数は一部のSNSを除き年々増え続けており、Facebookに関して言えば全世界で加入者数が9億人を突破している。

また、ICT(Information and Communication Technology、情報通信技術)という言葉も新たに生まれた。意味自体は従来の「IT」とほぼ同義であるが、ITの「情報」に加えて、Communication(共同性)が表現されている点に特徴がある。つまり、ICTとは、ネットワーク通信による情報の共有を念頭に置き誕生した概念である。

時代の変化とともに様々な技術が生まれては廃れ、その都度発展を伴ってきたが、インターネットがこれほどまでに普及するとは、ソーシャルメディアそしてSNSがこれほどまでに浸透するとは、いったい誰が予想できたであろうか。絶え間なく変わりつつある現代情報化社会において、情報技術は社会生活のインフラとして重要性を増してきている。最早、インターネットがなくては生活ができないといった人々も出始めている。インターネットによる恩恵は確かに存在する。それは、今まで不可能とされたことを可能とし、これからの発展によってはICTには無限の可能性を秘めていると言っても過言ではない。しかしその反面、信頼性や安全性、SNSでのトラブル等、新たな懸念材料という、負の側面も持つ。

上述した内容を踏まえつつ、本論文では主題を大きく二部の構成に分け、前半部では「ソーシャルメディアの活用とその可能性」を中心に論じ、その後、後半部で「浮かび上がる課題への対応・解決策」を提言していきたいと思う。

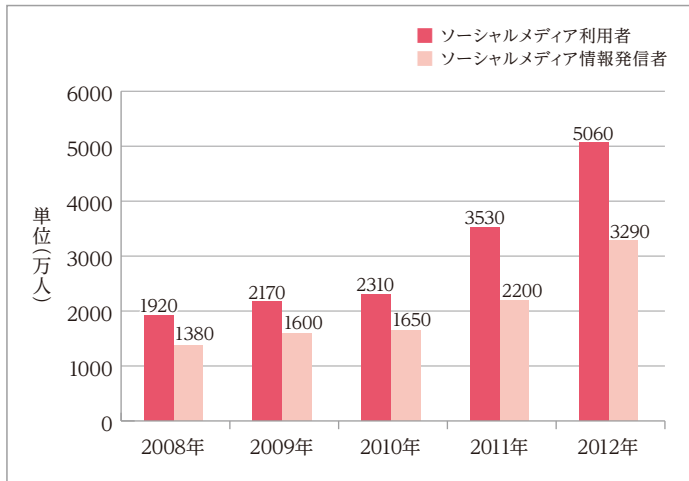
¹ 2012.04.24、日本経済新聞朝刊に掲載。

第1章 ソーシャルメディアで世界とつながる

1 ソーシャルメディア人口の急速な広まり

現在、SNSが世界中で急速に広まっている。世界で最も利用されているSNSの一つであるFacebookに関して、日本国内でもおよそ2000万人のユーザーがいると推計されている。その他のコンテンツも含めるとソーシャルメディア²の人口は以下ようになる。(図1-1)

図1-1 ソーシャルメディア人口推移値(日本国内)



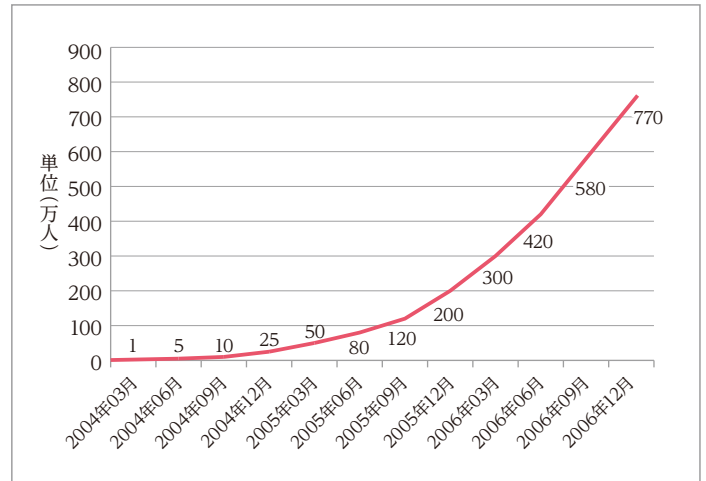
インターネットメディア総合研究所「インターネット利用動向調査」(2012年)を基に作成

2012年5月時点での日本のソーシャルメディア利用者数は5,060万人にのぼる。昨年の3,530万人から1,530万人増加しており、特にこの2年間で加速度的に伸びていることが読み取れる。また5,060万人のうち、投稿や書き込みなど、何らかの情報発信を行っているユーザーは3,290万人と推計され、ソーシャルメディア利用者の65.0%に該当する。

これほどまで急速にソーシャルメディアが発展した背景として、ただ単に便利だから、友達がやっているから、という一般的な回答以外に、「ネットワーク外部性」という経済学に関連した概念がある。これは、電話・FAX・電子メール・掲示板などのネットワーク型サービスにおいて、加入者数の増加に伴い、利用者の便益が増加する現象を言い、“正のフィードバック”が発生することが知られている。つまり、加入者が増えれば増えるほど新たに加入する者の便益は増加し、ますます加入者が増えるというものである。逆に、新規加入者にとっての便益は既存の加入者数に依存するため、そのコミュニティ

の加入者が少ない内は普及がしにくいという側面も持つ。尚、ネットワーク外部性が働く製品・サービスには、クリティカル・マスと呼ばれる一定の普及率があり、これは、ある商品やサービスの普及率が一気に跳ね上がるための分岐点となっている普及率のことである。以下にその一例を提示したい。(図1-2)

図1-2 mixiユーザー数の推移(2004年~2006年)



株式会社mixi プレスリリース(<http://mixi.co.jp/>)を基に作成

少し昔の資料になるが、日本国内の代表的なSNSであるmixiを例にとって論じてみたい。図1-2を見ると、mixiが誕生してから間もない2004年~2005年にかけては、ユーザー数は横ばいであるが、その後2006年以降に急速に加入者数が増加していることが分かる。これは、ある商品やサービスが市場に登場すると、最初は最も先進的なイノベーター(革新者)と呼ばれる消費者層に受け入れられ、次に新しいものに敏感なアーリーアダプターと呼ばれる利用者層に広まり、それから徐々に、保守的な利用者層にも広がっていく。このとき、市場全体の普及率がクリティカル・マスに達すると、それまでの普及率の伸びが一気に跳ね上がると指摘されている。2006年以降に急速に加入者数が増加した点こそクリティカル・マスである。なお、前項の図1-1に関してみても、棒グラフの上に同じような放物線を描くことが出来る。

² ソーシャルメディアとは、電子掲示板や、ブログ、ソーシャルブックマーク、SNS、画像や動画の共有サイト(you tube)など、様々な形態を持つ社会的相互作用を通じて広がっていくように設計されたメディアである。尚、本論文においてはSNSをソーシャルメディアの一形態として捉えていく。

2 世界とつながる六次の隔たり

SNSを利用していると、たいいていの人面白いと気が付く現象がある。それは、一言で言えば、世界の小ささである。自分とは全く無関係と思っていた人が、実は自分の友人の友人であるなど、思いもかけない出会いがある。実は、SNSが誕生する遥か昔に、同じような考えを持ち、世界の小ささということに対して実験を行った学者が居た。ミルグラム実験などに代表される、社会心理学者のスタンレー・ミルグラムである。彼は、「知り合い関係を辿っていけば比較的簡単に世界中のだれにでもいきつく」という仮説をたて、その仮説を検証するために、1967年にスモールワールド実験³(small world experiment)を行った。その結果、知り合い関係を芋蔓式にたどっていけば、平均して6名前後で世界中のだれとでも知り合いになれることが分かった。ここから「世界は意外に狭い」という認識が生まれ、この現象は6人前後という数をとって「六次の隔たり」と名付けられた。SNSに代表されるネットワーク型サービスはこの仮説が下地になっていると言われている。また、この現象は現代のSNSでも再検証されており、2010年4月29日にカナダの調査会社「Sysomos」が、Twitterにおけるユーザーのつながりを分析したところ、Twitterユーザーのほとんどは「5次の隔たり」以下であるという結果を発表した。また、2011年11月21日に発表された、Facebookがイタリアのミラノ大学で行った調査でも、目標となる相手を含めた知り合いの平均が、4.74という数値になり、「5次の隔たり」以下であることが明らかになった。このような調査結果から、近年のSNSでは、実生活よりも他人同士のつながりが「近い」ことが分かる。そしてSNSは、実際にはこの程度の「狭さ」「近さ」である人間関係のネットワークにおける関係性を賦活するという役割を果たしているのである。

3 ソーシャルメディアの活用とその可能性

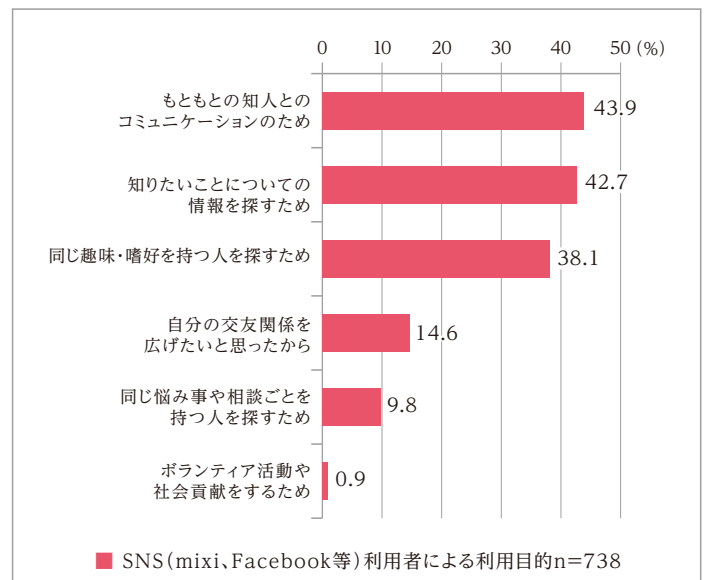
ここまでで、ソーシャルメディア・SNSの急速な広まりと世界は意外と狭いという点を論じてきたが、ではそもそもSNSとは何なのか。もう一度原点に戻ってみたい。SNSとは一言でいえば「ネット上のコミュニケーションツール」である。それは、仕事や趣味を同じくする者の間で使われるだけではなく、思いもかけない場所で、時として威力を発揮することがある。例えば、2011年3月に発生した東日本大震災でのSNSの活躍である。電話などの通信インフラが軒並み不通になる中、SNSの利用により、安否確認が可能となり、支援の

マッチングにも活用されたことは記憶に新しい。その他の事例としては、「アラブの春⁴」などがある。これは平成22年から23年にかけてチュニジアを中心とする中東諸国の民主化運動であり、Facebookを中心にソーシャルメディアが大きな役割を果たした。SNSとは多少異なるが、尖閣諸島での日本の巡視船と中国漁船の接触事故のビデオが、You Tubeで公開されたことも大きな議論となった。

また、数自体は少ないが、ICTの利用によりマイノリティ(minority、少数派)が力を持ち始めたという事例も少なからず存在する。それまでは、マジョリティ(majority、多数派)の圧力により影を潜め、同じ趣味・嗜好を持つだろう仲間の存在を知ることができなかったマイノリティだが、ICTの活用により、互いの存在を認識し、同じ趣味・嗜好を持つ仲間を作ることで、いい意味でも悪い意味でも、発言力を高めるようになってきた。

このように、我々の実生活を振り返ってみても、インターネットによる情報の入手・伝達という単一的な目的から、SNSを始めとするICTの力により、情報の発信・共有という複合的な目的へと変容してきたことがわかる。これは、人と人のつながりを再確認したり、知識、思考・感情等を共有したり、現実世界での不安を解消するなど、実社会に対して何かしらの影響力を持っていることがわかる。以下の図を見ていただきたい。(図1-3)

図1-3 ソーシャルメディア(SNS)の利用目的(複数回答)



総務省「次世代ICT社会の実現がもたらす可能性に関する調査」(平成23年)を基に作成

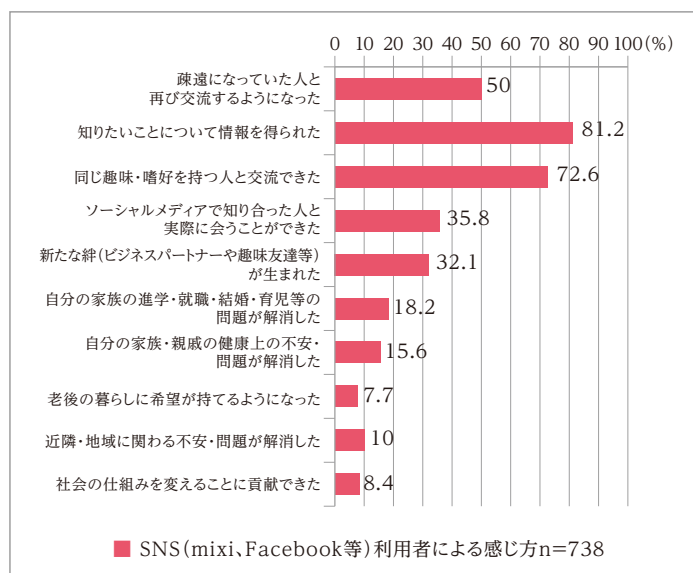
³この実験では、アメリカネブラスカ州オマハの住人160人を無作為に選び、「同封した写真の人物はボストンに在住しています。この顔と名前的人物をご存知でしたらその人の元へこの手紙をお送り下さい。この人を知らない場合は貴方の住所と氏名を書き加えた上で、貴方の友人の中で、この人を知っていそうな人にこの手紙を送って下さい」

という文面の手紙をそれぞれに送った。その結果、届かない手紙も多くあったが、最終的には42通(26.25%)が実際に届き、42通が届くまでに経た人数は平均6.2人であった。

左記の図は、総務省が738世帯を対象に行ったソーシャルメディアの利用目的に関する調査だが、従来のITが担ってきた「情報の入手」という役割のほかに、「知人とのコミュニケーション」「同じ趣味や嗜好を持つ人を探す」など、他者との交わりを重視していることがわかる。このことから、ITからICTへの移行という現象を見ることが出来る。

また、実際にソーシャルメディアを利用して実感したこと、実現したことを以下の図にまとめてみた。(図1-4)

図1-4 ソーシャルメディア(SNS)を利用して実現したこと(複数回答)



総務省「次世代ICT社会の実現がもたらす可能性に関する調査」(平成23年)を基に作成

この図からも、他者との交流という点が重視されたことが分かる。また、数自体は少ないが、ソーシャルメディアを利用して身近な不安・問題を解決したと感じる利用者がいるとの結果も得られた。

その他にも、SNSの活用による地域活性化などが行われている。これは、自治体レベルでSNSを導入し、地域住民の行政への参加や、従来とは異なる新たな地域コミュニケーションシステムの構築などを念頭に入れ、SNSを介して、地域の特色や潜在価値の発見・再認識につなげ、元気で魅力あるまちづくりに役立てるといった目的を持ったものである。もちろん、地元の人以外にも、観光客誘致を狙ったものもある。従来型の固定化された一方的な情報発信ではなく、情報を発信する側、情報を受信する個人、さらには旅行社、マスコミ、現地施設などが相互にコミュニケーションできるシステムを構築し、マス

メディアなどと連携したプロモーションイベント、参加型の情報コンテンツの展開などがある。

段落の冒頭に記述した、ソーシャルメディア・SNSの東日本大震災での活用、アラブの春で果たした役割、そして、上述した内容からも、ソーシャルメディア・SNSは個人対個人、個人対自治体、自治体対自治体、そして最終的には国対国レベルでの活躍が期待される、様々な可能性を持った、新たな技術であることがわかる。

4 まとめ

第1章の1~3では、ソーシャルメディア・SNSは現在世界中で急速に発展しており、外国・国内問わず、人と人が心理的な意味でも距離の近い存在になった。このような恩恵を齎したソーシャルメディアは、今後の発展次第では、無限の可能性を秘めた存在となった。ここでは第1章のまとめとして、ソーシャルメディア・SNSの可能性について、整理していきたいと思う。

- ① 疎遠になっていた人と再び交流するようになった、同じ趣味・嗜好を持つ人と交流することが出来たなど、オフラインコミュニケーションの補完やソーシャルメディアを契機とした新たなコミュニケーション作りの構築。
- ② 観光客誘致や地元住民とのSNSを介した相互交流による地域活性化。
- ③ 本稿では触れなかったが、難病を持つ者同士の闘病体験の共有や、進学・就職・結婚といった身近な不安・疑問の解決に貢献。
- ④ 東日本大震災やアラブの春など、有事の際に行政主導による行動ではなく、個人レベルによる問題解決意識、情報等の共有。などが挙げられる。もちろん上記以外にも数多くの可能性が存在するが、総じて言えることは、ソーシャルメディアは人と人との絆を深め、人と人が支えあうためのツールとして活用できるということである。

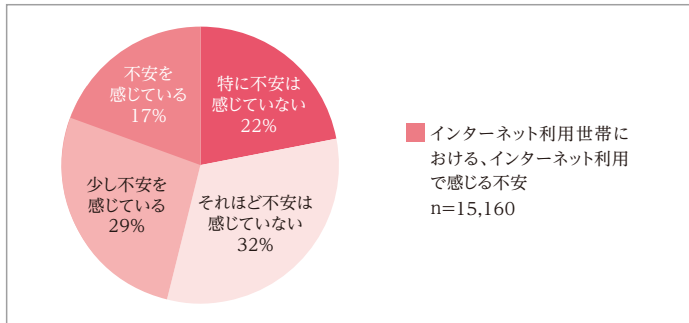
⁴ 衛星テレビ局のアルジャジーラがウェブサイトを通じてデモの状況を生中継したこと、Twitter, Facebook等のソーシャルメディアがデモ参加の呼びかけのツールとして活用されたこと等が指摘されている。

第2章 浮かび上がる課題への対応

1 インターネット利用の課題

第1章では、SNSを始めとするソーシャルメディアには様々な効用があると論じてきた。しかし、従来の「情報の入手」という役割から「情報の発信・共有」という役割に移り変わったソーシャルメディアにおいて、新たに浮かび上がる課題もあるはずである。まずは以下の図を見ていただきたい。(図2-1)

図2-1 インターネット利用で感じる不安(世帯)



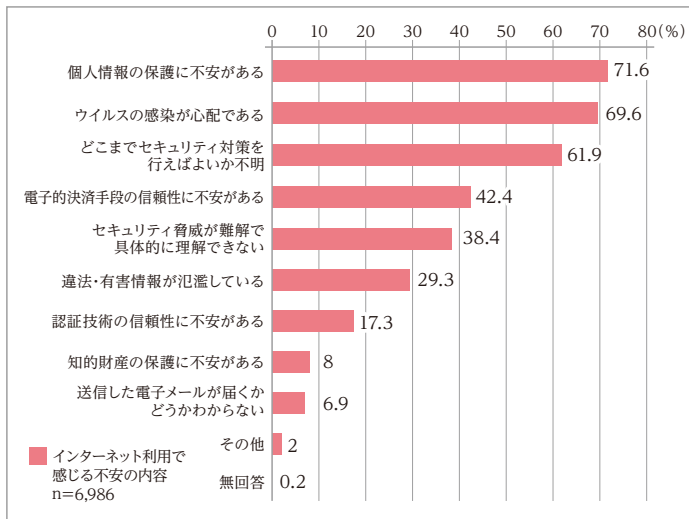
総務省「平成22年通信利用動向調査」を基に作成

総務省の資料を基に作成した図だが、約半数の世帯がインターネットの利用に不安を感じていることが分かる。

尚、本論文において、インターネット・ソーシャルメディア・SNS等の表現が頻繁に出現するが、この表現については、インターネットの利用が一番の大枠にあり、その中にソーシャルメディアが組み込まれ、SNSはソーシャルメディアの一形態であるということを確認しておく。

では次に、不安の内訳を見ていきたい。(図2-2)

図2-2 インターネット利用で感じる不安の内容(世帯)(複数回答)



総務省「平成22年通信利用動向調査」を基に作成

図2-1において「少し不安を感じている」「不安を感じている」と回答した世帯を対象に追調査したものが上記の図である。この図から「個人情報の保護」に対して不安を抱いている世帯が多くいることが読み取れる。また個人情報の保護について、さらに細かく分析していくと、①自分の個人情報が漏えいする②自分の個人情報を他人に不正に利用される③プライバシーを侵害される④自分の個人情報が消せない⑤自分の情報が他人に改ざんされるなどの理由が中心として存在することが分かった。

特にSNSのような、当初から人と人のつながりを促進・サポートすることが目的のコミュニティ型サイトなどでは、利用者の個人情報をオープンにしているものが多く、容易に本人の個人情報を入手することが可能である。また、こちら側から関わりを持ちかける相手が必ずしも正しい情報を掲載しているとは限らず、それがもとでトラブルに巻き込まれるケースも多々ある。

利用者が注意しなければいけない点は、不特定多数の人との交流が可能ということは、それだけの人に対して個人情報をさらしているという認識を持つということである。

また、ソーシャルメディアに対しての知識が乏しいということから、自ら犯した事例を暴露する者もいる。カンニング・未成年者喫煙・飲酒運転などをTwitter等のソーシャルメディアに書き込み、その時は調子に乗っていても、暫くして落ち着きを取り戻し大急ぎで発言を削除しようとするが、コピペがネット中に張り付けられ、もはや手遅れとなってしまった、などの事件が大学生を中心に何件か起きている。これはどちらかということ、個人情報という点ではなく無知ゆえの愚行と言えるが、不特定多数の人が自身の発言を閲覧することが出来るという点では共通の概念である。

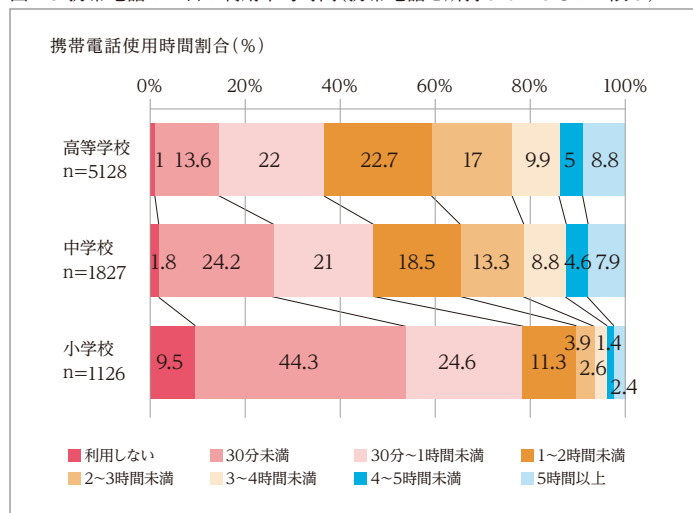
最近では実名登録制を基にしたSNSも増えてきた。当初日本において実名登録制は受け入れられないとの指摘が数多くあったが、Facebookのユーザー増加数を見れば、匿名よりも実名登録制の方がユーザーに与える安心感もあるせいか、今では実名登録制の方が主流になりつつあると分かる。しかし、サイト内の安心感や相手に対しての信頼感は増すが、その分多くの個人情報を漏えいさせているという点も忘れてはならない。

このように、インターネットの利用による安心・安全への懸念はあるが、それでも半数以上のユーザーにとってすれば、不安は特に存在しないものとしている。これが、きちんとした知識を構築した上での不安の解消なら問題ないが、無知ゆえの不安のなさが一番危険である。後者の人たちの多くが犯罪に巻き込まれる予備軍といっても過言ではない。そこで、第一にすべきことは、正しい理解である。最低限の知識をもってインターネットに接することが大切なのである。

2 SNS利用媒体による生活支障への課題

ソーシャルメディアやSNSを利用する媒体としては、パソコンや携帯電話が主であるが、本段落では、その中で携帯電話に焦点を当てていきたい。携帯電話は非常に便利な道具である。小型サイズであり持ち運びが楽であり、現代人の必須アイテムともいえる。しかし、使い方を誤れば、日常生活に支障をきたす恐れや、友人関係のトラブルに巻き込まれる危険なアイテムとなる。(図2-3)

図2-3 携帯電話の一日の利用平均時間(携帯電話を所持しているものに限る)



岡山県教育庁生徒指導推進室調べ
「平成23年度携帯電話等の利用に関する実態調査」を基に作成

図2-3は、岡山県内での携帯電話の利用実態調査であるが、小学生から中学生になると半数以上の児童が1日1時間以上携帯電話を使用するようになり、中高生の20%以上が1日3時間以上を費やしていることが読み取れる。5時間以上利用している生徒もあり、これは、学校に行っている間と睡眠時間以外は、ほぼ携帯電話を操作している状態とえる。また、睡眠時間を削ってまで携帯電話を夜遅くまで操作している者もいる。

ここでは、SNSの利用媒体として使用される携帯電話の中でも、日常生活にきたす問題の方に着目していきたい。

一般的に携帯電話の問題点といった場合は、SNSなどを介して犯罪に巻き込まれることを想定しがちだが、それ以外にも「生活習慣」の乱れ、「集中力」の低下、実社会での直接的「コミュニケーション力」が身につかない、「ながら操作」の前方不注意による交通事故等のトラブルも存在する。また、片時も携帯電話を手放すことができなくなり、手元にないと不安な気持ちになるといった状態など、依存症と大差ない状態になる場合もある。それは、携帯電話を使用するはずの利用者による主-従の関係から、携帯電話によって支配されてしまっているという、逆の関係になり、何とも皮肉なことである。

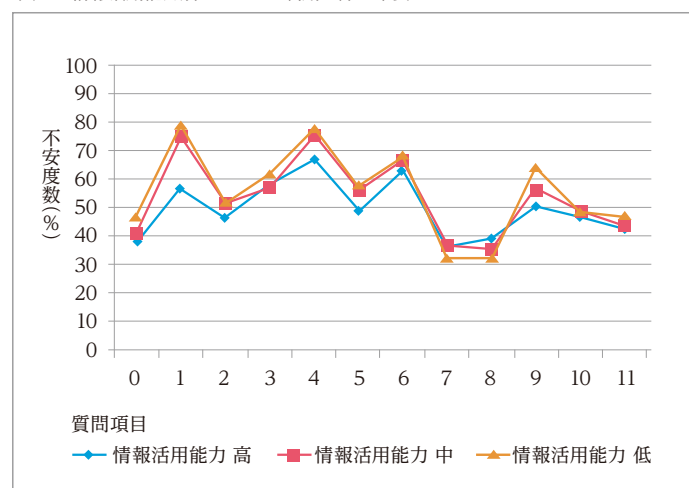
(これはインターネット依存症等にも言えることだが)依存症を回避するためにすべきことは、①現状の把握②失った時間の検討(機会費用⁵の概念を使用)③目標の設定などである。

尚、携帯電話の使用時間を削減すべきという極論は、筆者からすれば避けるべきだと思う。依存症や、あまりに長時間の使用、目的もなくネット世界を飛び回することは止めるべきであるし、回避すべきだが、通常の利用に関しては(個人情報に対しても同じく)上述した日常生活に支障をきたすことへの正しい理解をさせることが最も重要であると言える。

3 提言

正しい理解が伴っていないことからの誤った認識、無知ゆえの過ちの言動・行動、気づかない内に進行する依存症など、どれも「知らない・学んでいない」からこそ起こった、本来ならば回避できたはずのものである。また、本章の1段落でも述べた、インターネット利用に関する不安についてだが、こちらも、学習をすることで多少は不安を和らげ、正しい知識を身に付けることができるはずである。本節では、提言を述べる前に、まずは以下の図を見ていただきたい。(図2-4)

図2-4 情報活用能力別によるICT利用の際の不安



総務省「ICT活用社会における安心・安全等に関する調査」(平成23年)を基に作成

⁵ ある行動を選択した場合に、実際に選択しなかった他の行動は実現されず、仮に選択しなかった他の行動をした場合に得られたであろう利益が犠牲になっていることを示す。

これは、総務省が行った情報活用能力別のICT利用の不安度を測ったものであり、縦軸に不安度数(数値が高いほど不安が強い)、横軸に項目の番号を設け、作成したグラフである。

まず、情報活用能力のそれぞれの定義として、高は『パソコン本体やインターネット接続等でのトラブルが起きても、パソコン本体やインターネット接続等でのトラブルが起きても、自分で解決できることが多く、困っている人へのアドバイスもできる』。中は『トラブルへの対応は難しいが、ソフトウェアのインストールやネットワーク関係の設定等、説明書やアドバイスがあれば機器等の設定がある程度は自分でできる』。低は『メールの受信や特定のホームページの閲覧など、ごく簡単(定型的)な操作はできるが、状況に応じて利用方法を工夫することは難しい』である。この定義分けのもと、参加者を、それぞれ情報活用能力が高(n=254)・中(n=839)・低(n=552)の3群に分け、12項目の質問に答えてもらった。質問項目は以下のとおりである。

0. ネット活用全般の不安 1. ウイルスの感染が心配である 2. 認証技術の信頼性に不安がある 3. 災害時のシステムダウンやネットワーク切断等による通信障害に不安がある 4. プライバシー(個人情報)の保護に不安がある 5. 電子的決済手段の信頼性に不安がある 6. 公的機関や企業などが保有する個人情報の流出に不安がある 7. 監視カメラなどによる人物や建物の自動的な撮影に不安がある 8. 知的財産の保護に不安がある 9. 違法・有害情報が氾濫している 10. ICT利用におけるマナーや社会秩序に不安がある 11. インターネット社会に対応した制度・慣行に不安がある

質問内容のうち、1と4に着目してみると、情報活用能力が高いの方が、不安度は低下している。

上述した内容をすべて踏まえた上で提言へと移りたい。現代情報化社会において、正しい知識を持たずしてインターネットや携帯電話、SNSを利用している者が数多くいる。そこで、正しい知識を身に付けさせるために、全国の公立中学校に国から多機能携帯(スマートフォン)を全校生徒に無料配布をし、それを基にして、情報の授業と並行して、SNSやソーシャルメディアの授業を行うのである。図2-4によると、全般的に見れば不安度は高めだが、情報活用能力が低い群と高い群を比べると、ほとんどの項目で高い群のほうが不安度は低めになっている。このことから、情報活用能力を上昇させることは、現代情報化社会において安心・安全への懸念の払しょくにつながると言える。

提言の終わりになるが、最後に、インターネットとの付き合い方について一言だけ述べておく。それは、ICTもSNSもソーシャルメディアも、それらは全て、ただのツールであり、それらを上手く使いこなすことが、目的なのではない。それは、現実世界でのコミュニケーションを円滑にする道具であり、手段にすぎないのだ。

終わりに

筆者が生まれたばかりの頃は、SNSはおろか、携帯電話すらまだ珍しい時代であった。PHSやポケベルといっても、今の小中学生には何のことだが分からないであろう。20世紀が戦争の世紀と呼ばれているのならば、21世紀は情報の世紀と呼ばれることになるかもしれない。

20年前に今の時代の到来を予測できなかったのと同じで、20年後(筆者達の世代が年齢的にも社会の中心となり活動する頃)の未来を予測するのは不可能であろう。その頃は、どんな進化が待っているのか、いまから楽しみでもあるし、その時にまだ学習院大学が「学生の提言」のシリーズを続けていたのならば、その時は、もう一度同じテーマをもってして提言を募集してみるのも面白いかもしれない。

参考文献

桜井哲夫・大榎淳・北山聡

「入門講座 デジタルネットワーク社会」

平凡社2005年

志村一隆

「明日のメディア：3年後のテレビ、SNS、広告、クラウドの地平線」

ディスカヴァー・トゥエンティワン2011年

原田和英

「巨大人脈SNSのチカラ」

朝日新聞社2007年

総務省HP <http://www.soumu.go.jp/>

岡山県教育庁HP <http://www.pref.okayama.jp/site/16/>

株式会社ミクシィHP <http://mixi.co.jp/>

平成24年度 学年末試験について

■告 示

すでに発表されたとおり、来る1月18日(金)から学年末試験が行われる。受験にあたっては、正々堂々自らの実力を発揮し、日頃の研鑽の成果をあげてほしい。

この際、特に学生諸君に求めたいのは、決して不正行為を行わないという決意と、誘惑をしりぞける勇気である。これまで再三の注意にもかかわらず、不正行為が跡を絶たないのは、誠に悲しむべきことと言わねばならない。諸君は、不正行為が憎むべき裏切り行為であるばかりでなく、おのが人格の完全な否定であることを知るべきである。

大学としては、不正行為に対し、断固たる処分をもって臨む方針である。切に諸君の自戒・自肅を望む。

平成25年1月

学 長

■学年末試験にあたって

本年度学年末試験が1月18日(金)から始まるが、試験に臨むに当り、履修要覧「履修について」項目8(試験について)、法科大学院履修要覧「履修方法等に関する要項」[9. 試験]を再度熟読し、いやしくも本学学生として学長告示に違背することのないよう特に要望する。**万一、不正行為があった場合には、「定期試験における不正行為者への懲戒内規」に基づき、退学や停学及び当該年度的全履修単位を無効とするなどの厳しい処分を行う方針であるから特に自戒を切望する。**

平成25年1月

学生センター所長

平成24年度 学年末試験 実施日程・時間など

■1月18日(金)～1月31日(木)

1 時限	9時00分～10時30分	<60分で試験を行う科目>	試験本部は多目的ホール (西5号館1階)に設ける。
2 時限	10時50分～12時20分	総合基礎科目(外国語科目とスポーツ・健康科学科目)	
3 時限	13時10分～14時40分	<90分で試験を行う科目>	
4 時限	15時00分～16時30分	専門科目・総合基礎科目(外国語科目とスポーツ・健康科学科目を除く) 教職に関する科目・博物館に関する科目	
5 時限	16時50分～18時20分	<90分または120分で試験を行う科目>	
6 時限	18時40分～20時10分	法科大学院科目	

学年末試験は上記の期間に実施するが、授業科目によっては、上記期間外に実施するものもある。

試験時間割は1～2週間前に掲示によって発表する。

※気象に関する警報が発表された場合、および自然災害・ストライキに起因する交通機関の運行停止の場合の措置については、授業と同様の扱いとする(学部・大学院履修要覧「履修について」の「5. 休講について」法科大学院履修要覧「履修方法等に関する要項」の「7. 休講」参照)

◆受験上の注意

- (1)履修届によって登録された授業科目でなければ受験することは出来ない。
- (2)試験時間割には、平常の授業と試験の曜日・時限・教室が異なる授業科目等があるので注意すること。
- (3)受験の際には、必ず学生証を携帯し、試験時間中は写真面を上にして常に机の上に呈示しておかなければならない。
- (4)学生証を携帯しない者は、いかなる事情があっても受験出来ない。

- (5)学生証を忘失した者に対しては、試験期間中に限り特別に発行する「仮学生証(学内試験用)」(中央教育研究棟1階学生センター教務課で発行)を持参、呈示した場合に限り、受験を許可する。
- (5)試験場における座席は、番号札もしくは本学備付六法の番号によって指定する場合がある。その場合、学生は入室時に必ず番号札もしくは本学備付六法を受け取り、指定された席に座らなければならない。

- (6) 試験教室に入室する際は、必ず携帯電話などの電源を切り、バッグ等の中にしまわなければならない。帽子・サングラス等も同様、バッグ等の中にしまうこと。
- (7) 着席後は、私語を慎み、筆記具その他予め許可されたもの以外を机の上に置いてはならない。
- (8) 試験教室に入室した後、手洗い等のために一時退室することは一切認められない。
- (9) 試験開始後20分以上遅刻した者は受験を認めない。また、試験開始後30分を経過するまでは、試験場からの退出を許可しない。
- (10) 解答用紙には、最初にボールペンもしくは万年筆で学籍番号、氏名等所要事項を記入し、退出の際には、教卓、教壇等指示された場所に必ず提出しなければならない。解答を断念した場合も同様である。
- (11) 5大学間単位互換制度(f-Campus)に基づく他大学提供科目と本学授業科目の試験日時が重複した場合には、他大学提供科目の受験を優先し、本学授業科目の試験については学生センター教務課に相談し、別途指示を受けること。

◆棄権について

- (1) 受験の途中で棄権する場合は、学籍番号、氏名等所要事項を正確に記載のうえ、科目担当教員が棄権したことを容易に確認できるように、解答用紙の表側中央に「棄権」と、大きく記載すること。
なお、「棄権」と記載した解答用紙を提出した学生は、当該科目の全ての権利を放棄したものとみなす。したがって、当該科目についての救済措置(成績調査・追試験等)はいかなる場合もこれを行わない。
また、「棄権」した科目の成績評価は行わず、成績表にも記載されない。

◆不正行為について

- 次の行為はこれを不正行為として学則第70条に基づき懲戒を加える。
- (1) 番号札もしくは本学備付六法を交換したり、これに応じたりすること。また、不正使用の目的をもって故意に番号札もしくは本学備付六法を持ち帰ること。
 - (2) 持ち込みを許可されていないノート、教科書、参考書等を参照すること。
 - (3) 持ち込みを許可された六法全書、辞書等に不正行為を目的として予め書き込みをすること。
 - (4) 試験時間中にノート、教科書、参考書等を貸借すること。
 - (5) 代理受験を依頼すること、および代理受験をすること。

- (6) 他人の答案をのぞき見て写したり、自己の答案を写させたりすること。
- (7) 試験内容に関する私語をすること。
- (8) 試験監督者の指示に従わないこと。
- (9) 以上の不正行為に類する行為をすること。

◆追試験について

(履修要覧「履修について」の、「9. 追試験について」、法科大学院履修要覧「履修方法等に関する要項」の、「10. 追試験」参照)

やむを得ない事情によって所定の日に試験を受けられなかった者で、所定の期日までに以下に示す詳細な理由を具して願い出た者に対し、教授会の議を経て追試験を許可する場合がある。

- (1) 学年末試験追試験対象科目
第2学期終了科目および通年科目
ただし、掲示による事前周知のない試験科目は対象外とする。
- (2) 出願期日 2月5日(火)まで
- (3) 手続時間は下記のとおり

月～金曜日	8:50～16:00
土曜日	8:50～12:00
日曜日・祝日	閉室

- (4) 受験料は、1科目につき1,000円である。
- (5) 以下の場合については、受験料を徴収しないこととする。
 - 5大学間単位互換制度に基づき、他大学設置科目の授業・試験を優先させた場合
 - 交通機関遅延の場合(ただし、鉄道に限る)
- (6) 追試験は、必ず評価の対象となり棄権は認められない。
また、追試験の場合は不利な点が多いので、試験期間中は、健康に充分留意すること。



学生センター教務課

平成24年度卒業生・修了者の発表について

平成24年度卒業生・修了者の発表は、平成25年3月11日(月)午前10時頃に、本学北1号館西側掲示場にて、卒業・修了が決定した学生の「学籍番号」および「氏名」の掲示により行います。また、本学のホームページでも公示します(ただし、ホームページでは学籍番号のみの発表となります)。

なお、電話による問い合わせには一切応じません。必ず各自で確認ください。

平成24年度成績表の交付について

平成24年度成績表を次のとおり交付します。

1. 対象者:卒業生・修了生を除く全員
2. 期 間:平成25年3月25日(月)・26日(火)・27日(水) [3日間]
9時~16時30分(11時20分~12時30分は昼休み)
3. 場 所:西5号館1階多目的ホール

注意事項

1. 必ず学生証を持ってきてください。
2. 卒業生・修了生の成績表は3月20日(水)の卒業式・修了式の際に学位記とともに交付します。
3. 科目等履修生の成績表は3月11日(月)以降、教務課窓口で交付します。
4. 平成25年度シラバス、授業時間割等を配付します。

保証人宛成績通知書送付について

平成25年3月下旬、保証人宛に成績通知書を送付します。

宛先は入学手続書類に記入していただいた保証人の住所・氏名をデータとして使用しますので、それ以降住所変更などがある場合には、早急に学生センター教務課まで変更内容を届け出てください。

また、発送に際しては、原則としてパソコンで使用できる文字(JIS 第2水準まで)を使用するため、住所・氏名の文字の一部が届け出いただいたものとは異なる場合があります。不都合がありましたらご連絡ください。

問い合わせ先:03(3986)0221(代表)

教務課 内線2313・2261

平成25年3月卒業生(学部) / 修了生(法科大学院・大学院)の証明書交付について

平成25年3月11日に卒業/修了が決定した学生に対して、次の要領で証明書を発行します。

(1) 証明書の種類

成績証明書(和文・英文)、卒業証明書(和文・英文)、学位取得証明書(和文・英文)※法科大学院・大学院修了生対象。修了証明書を兼ねる。

(2) 手数料

和文1通100円 英文1通300円

(3) 発行開始予定日

3月15日(金)

★詳細が決定次第、掲示板にてお知らせします。

★卒業式当日は証明書発行機が混み合うことが予想されますので、証明書が必要な方は早めに発行を受けてください。

★卒業追加認定者…3月30日(土)発表後受付開始、即日発行します。

平成26年3月卒業見込(学部) / 修了見込(法科大学院・大学院)学生の証明書の交付について

(1) 証明書の種類

- 成績証明書(和文・英文)
- 卒業見込証明書(和文・英文)【学部用】
- 修了見込証明書(和文・英文)【法科大学院・大学院用】
- 健康診断証明書(和文)

(2) 交付開始

4月6日(土) ※健康診断証明書のみ5月1日(水)

(3) 交付場所

証明書自動発行機より発行します。

月~金:9時~18時 土:9時~12時30分

学生センター学生課

「教育ローン金利助成奨学金」の募集について

学費納付を目的として教育ローンを借用した場合、家計負担軽減を目的として在学中に支払った金利の一部を申請により給付します。

1. 対象者

学費納付のため教育ローンを利用し、かつ、今年度(平成24年度)金利を支払っている者。

2. 給付金額(5万円を上限として給付)

今年度実際に支払った金利のうち、学費を上限とした借入金額に借入時金利を乗じた金額。

3. 申請方法

平成25年1月10日(木)以降、学生課窓口で申請書類を受け取り、①所定申請書②振込口座届③金利支払いを証明する書類を平成25年1月28日(月)までに学生課窓口へ提出してください。

4. 奨学金の交付

書類審査後、3月初旬に審査結果を通知します。給付決定者には、平成25年3月29日(金)までに指定口座に振込みます。

入学試験時の入構規制について

平成25年度入学試験が、平成25年2月6日(水)～9日(土)まで実施されます。みなさんのご協力をお願いします。

【学内入構禁止日時】

2月6日(水)午前6時～2月10日(日)午前6時

※一般学生の入構はできません。

※ただし、入構許可証またはリボンを交付された下記学生は入構が許可されます。

【入構許可証発行またはリボン交付対象者】

●監督補助員(アルバイト) ●案内誘導係(アルバイト) ●馬術部
※大学院生・法科大学院生及び理学部学生で、事前申請を行い許可された学生は、正門で記帳のうえ、指定リボンを着用することで入構できます。

【入構規制中の事務取扱い】

事務取扱いは行いません。図書の返却やレポート提出もできませんので注意してください。

平成25年度日本学生支援機構奨学金・学習院大学奨学金新規募集説明会(定期採用)の開催について

日本学生支援機構奨学金および学習院大学奨学金の新規募集説明会を次のとおり行います。平成25年度から新たに奨学金を希望する学生は、必ず説明会に出席のうえ申請資格の有無を自己判定するとともに、今後の手続日程を確認してください。

1. 開催時期・会場

学部新2～4年生

■開催日:平成25年4月4日(木) 15:00～16:00

■会場:北1号館201教室

大学院生・法科大学院生

■開催日:平成25年4月5日(金) 12:20～13:00

■会場:西5号館302教室

*各説明会の時間・会場等詳細は、決定次第、奨学金掲示板および学生課HPにてお知らせしますので、ご確認願います。

2. 奨学金出願資格

奨学金には、家計及び学力基準といった「申請資格」(詳細は説明会にて周知)を設定しています。また、採用枠という制約があるので、申請資格を満たしていても必ず採用されるとは限りません。

学芸員課程事務室

平成24年度「博物館学芸員資格取得者」の発表

平成24年度の博物館学芸員資格取得者の発表は平成25年3月11日(月)頃、掲示にて発表いたします。

「博物館学芸員資格取得証明書」の交付

平成24年度に博物館学芸員資格を取得した者に対して、「博物館学芸員資格取得証明書」を下記のとおり交付します。

記

日時 平成25年3月20日(水) 午前10時～午後2時まで
場所 学芸員課程事務室(史料館内)

●大学院生、科目等履修生についても3月20日以降に学芸員課程事務室において交付します。資格取得者は、必ず年度内に受け取りに来ること。

※他大学で一部単位を修得した人についても、科目履修登録の際に必要な書類をすべて提出した人には交付します。

●当日、博物館実習記録を返却いたします。

「博物館に関する科目シラバス」の配布について

最新の履修規程・履修上の注意事項が掲載された「平成25年度博物館に関する科目シラバス」は、学芸員課程事務室にて平成25年3月25日(月)(成績表交付期間)頃から配布する予定です。「博物館に関する科目」の履修計画を立てる際には、必ず熟読してください。

外国語教育研究センター

英語能力試験 (TOEIC-IP) の実施について

本学の英語教育をさらに充実させるため、以下の通り英語能力試験 (TOEIC-IP) を実施いたします。今回の試験結果によって皆さんの現在の英語力およびこれまでの学習の成果等を知ることができますので、忘れずに受験し、その結果を今後の英語学習にご活用ください。

- 対象 2年生 (平成23年度入学者) および3年生以上の平成23年度インテシヴ・コース合格者
◎上記以外で受験希望の学生を120名 (今年度は受験料無料) まで受け入れます。詳しくは下記参照のこと。
- 実施日時 平成25年3月25日 (月) 12:45~15:35
- 試験会場 試験会場は変更される可能性がありますので、詳細につきましては、外国語教育研究センター 掲示板 (北1号館西側掲示場) にてご確認ください。

<2年生>

法学部	法 西5-201	政 西5-B1
経済学部	済 西2-201	営 西2-401 (11-022-001~11-022-149) 西2-402 (11-022-150~11-022-307)
文学部	哲 西2-501	史 中央-302
	日 中央-301	英 西2-302
	独 西5-301	仏 中央-405 (11-036-001~11-036-058) 中央-401 (11-036-060~11-036-131)
	心 西2-301	
理学部	物 西2-305	化 西2-403
	数 中央-404	生 中央-402

<平成23年度インテシヴ・コース合格者> 西2-405

- 問い合わせ先
外国語教育研究センター [中央教育研究棟6階]
月~金曜日 / 9:00~11:30, 12:30~16:30,
土曜日 / 9:00~12:00
<http://www.gakushuin.ac.jp/univ/fltrc/index.html>

TOEICの試験前にあなたの英語の実力を測ってみませんか
—インターネットでできる英語コミュニケーション能力テストCASEC—

CASECは最新のテスト理論に基づいた高い判定精度をもつテストで、英語のコミュニケーション能力を短い試験時間 (平均40分程度) で測定し、その場でTOEICのスコアや英検の目安がわかります。このテストは学内だけでなく学外からも受験可能で、**無料**で利用できます。

詳細は下記の外国語教育研究センターのウェブサイトアクセスし、指示に従って受験してください。

インターネットで英語が無料で学習できます
—マルチメディア型英語教材 [ALC NetAcademy2]—

外国語教育研究センターでは、インターネットで英語が学習できるシステム [ALC NetAcademy2] を導入しています。コンピュータからサーバにある教材にアクセスし、スピードを変えてのリスニングや英文の表示速度を変えてのリーディングなどが可能です。新傾向のTOEICに対応した問題演習も多く用意されています。現在は学内はもちろんのこと、**自宅など学外からもアクセス**できるようになっていますので、TOEICの受験準備としてもぜひ活用してください。なお、利用は無料です。詳しくは下記の外国語教育研究センターのウェブサイトにある説明をご覧ください。

<http://www.gakushuin.ac.jp/univ/fltrc/index.html>

計算機センター

計算機センター実習室 学年末休講中の予定について

- <閉室日> 日曜日・祝日および入試期間
- <開室日> 日曜日・祝日、入試期間以外は平常通り
月~金 9:00~18:00 土 9:00~14:00

卒業・修了予定者へ

重要!

3月に卒業・修了する学生は、年度末をもって計算機センターの利用が出来なくなります。必要なファイルなどのデータは3月31日までに各自で持ち帰ってください。メールアドレスも抹消されますので、必要に応じて関係者に連絡しましょう。

国際交流センター

留学生バス旅行を実施しました

10月17日(水)の開院記念日に、社団法人霞会館のご助成のもと、本学と学習院高等科の留学生総勢43名(うち2名が高等科生)は、鎌倉へのバス旅行に参加しました。建長寺、高德院(鎌倉大仏)、鶴岡八幡宮見学、小町通り散策などを通して、留学生たちは日本の歴史や文化を一日堪能することができました。「本に書かれたことを読むよりも、実際に現地へ足を運ぶことで、日本の文化に対する理解がより深まった。」「ずっと行ってみたいかった鎌倉へ行くことができ、一日ゆっくり楽しむことができた。とても満足している」など、参加した留学生からは嬉しい感想が聞かれました。



鎌倉大仏前にて

東洋文化研究所

東洋文化研究所が北1号館に戻ります

現在、東1号館7階に仮移転中の東洋文化研究所ですが、年度内に北1号館4階に戻る予定です。当研究所は中国・朝鮮半島を中心とした東アジアに関する第一級資料を豊富に所蔵していますので、ゼミ発表やレポート作成、論文執筆の際に東アジア関連でお困りのこと、気になること(例:「○○についての文献が知りたい」、「朝鮮の○○について調べたい」)等々ございましたらお気軽に閲覧室にお越しください。引越しの期間が確定しましたらホームページなどで告知します。

開室時間 月～金 9:30～17:00(出納・複写受付は16:30まで)
土 9:30～11:30

所在:東1号館 7階 702 東洋文化研究所閲覧室
ホームページ:<http://www.gakushuin.ac.jp/univ/rioc/>

「東アジア学バーチャルミュージアム」web上で公開中です

昨年度より、学習院大学が所蔵する東アジア資料(古文物・拓本・古典籍)についての画像データをweb上で公開しています。「学習院にこんなものがあったのか」と驚くこと必至です。中国の銅鏡や広開土王碑拓本、朝鮮総督府文書(友邦文庫)、漢籍、古写真などの展示を行なっています。ぜひ一度ご覧ください。

URL:<http://www.gakushuin.ac.jp/univ/rioc/vm/index.html>



施設部

輔仁会館の学年末休講中の貸出について

学年末休講期間中(2月～3月)の輔仁会館(集会室・和室)は、下記日程のとおり貸出を行いません。

なお、4月上旬の『新入生歓迎期間』と、『オール学習院の集い4月13日(土)・14日(日)』については貸出を行いません。

また、下記貸出期間中においても、学校行事・点検等により貸出を行わない場合がありますので、その都度、掲示にてお知らせいたします。

【輔仁会館関係掲示板】

輔仁会館本館1階掲示板・施設部カウンター前

貸出日	貸出時間	申込受付(施設部窓口)
2月 1日(金)～ 2月28日(木)		貸出なし(入試・工事等のため)
3月 1日(金)～ 3月31日(日) (3月20日(水)を除く)	通常通り	3月1日(金)～6日(水)分 …1月23日(水)に 一括で予約受付開始 3月7日(木)～12日(火)分 …1月24日(木)に 一括で予約受付開始 3月13日(水)～19日(火)分 …1月25日(金)に 一括で予約受付開始 3月21日(木)～27日(水)分 …1月26日(土)に 一括で予約受付開始 3月28日(木)～31日(日)分 …1月28日(月)に 一括で予約受付開始

輔仁会館は禁煙です

輔仁会館は全館禁煙ですが、学生談話室・集会室・ベランダ・外階段において、喫煙の形跡(タバコの吸殻・煙の臭い)が数多く見受けられます。喫煙は、輔仁会館前広場(黎明会館寄り)などの喫煙ゾーン(学内6箇所設置)でお願いします。

なお、施設部では、輔仁会館禁煙パトロールを実施しています。輔仁会館にて喫煙を行なっている場合は、集会室等の貸出を禁止することがありますので、注意してください。

財 務 部

平成25年度学費納入について

平成25年度第1期分の学費納付金振込依頼書(振込用紙)の発送予定および納付期限は、下記のとおりです。納入について不明な点などございましたら、会計課までお早めにご相談ください。

- ◎必ず送付された振込用紙にて納付してください。
- ◎年額を納付することもできます。(第1期分のみ振込依頼書と年額分の振込依頼書を送付いたします。)
- ◎住所変更をされた方は学生センター教務課へ届け出てください。

- 発送時期 平成25年4月中旬
- 納付期限 平成25年4月30日(火)

学 費 一 覧 表

(単位 円)

区 分	項 目	入学年度	合 計	分納額・分納期		授 業 料			※ 施設設備費	※ 父母会費	※ 輔仁会費	※ 新聞代	※ 学会費			
				第1期	第2期	※第1期	第2期	計								
大 学	法学部	H17~H18	870,800	565,800	305,000	305,000	305,000	305,000	610,000	246,000	5,000	6,300	500	3,000		
		H19	910,800	591,800	319,000	319,000	319,000	319,000	638,000	258,000	5,000	6,300	500	3,000		
		H20~H24	950,800	617,800	333,000	333,000	333,000	333,000	666,000	270,000	5,000	6,300	500	3,000		
	経済学部	H16~H18	867,800	562,800	305,000	305,000	305,000	305,000	610,000	246,000	5,000	6,300	500	—		
		H19	907,800	588,800	319,000	319,000	319,000	319,000	638,000	258,000	5,000	6,300	500	—		
		H20~H24	947,800	614,800	333,000	333,000	333,000	333,000	666,000	270,000	5,000	6,300	500	—		
	文 学 部	心理学科以外	H17~H18	943,800	598,800	345,000	345,000	345,000	345,000	690,000	240,000	5,000	6,300	500	2,000	
			H19	983,800	623,800	360,000	360,000	360,000	360,000	720,000	250,000	5,000	6,300	500	2,000	
			H20~H24	1,023,800	648,800	375,000	375,000	375,000	375,000	750,000	260,000	5,000	6,300	500	2,000	
		心理学科	H18	973,800	628,800	345,000	345,000	* 30,000 375,000	345,000	* 30,000 720,000	240,000	5,000	6,300	500	2,000	
			H19	1,013,800	653,800	360,000	360,000	* 30,000 390,000	360,000	* 30,000 750,000	250,000	5,000	6,300	500	2,000	
			H20~H24	1,053,800	678,800	375,000	375,000	* 30,000 405,000	375,000	* 30,000 780,000	260,000	5,000	6,300	500	2,000	
	理 学 部	物理学科 化学科 生命科学科	H18	1,315,800	845,800	470,000	470,000	* 80,000 550,000	470,000	* 80,000 1,020,000	284,000	5,000	6,300	500	—	
			H19	1,365,800	876,800	489,000	489,000	* 80,000 569,000	489,000	* 80,000 1,058,000	296,000	5,000	6,300	500	—	
			H20	1,415,800	907,800	508,000	508,000	* 80,000 588,000	508,000	* 80,000 1,096,000	308,000	5,000	6,300	500	—	
			H21~H24	1,465,800	938,800	527,000	527,000	* 80,000 607,000	527,000	* 80,000 1,134,000	320,000	5,000	6,300	500	—	
		数学科	H18	1,235,800	765,800	470,000	470,000	470,000	470,000	940,000	284,000	5,000	6,300	500	—	
			H19	1,285,800	796,800	489,000	489,000	489,000	489,000	978,000	296,000	5,000	6,300	500	—	
			H20	1,335,800	827,800	508,000	508,000	508,000	508,000	1,016,000	308,000	5,000	6,300	500	—	
	H21~H24	1,385,800	858,800	527,000	527,000	527,000	527,000	1,054,000	320,000	5,000	6,300	500	—			
大 学 院	博士前期課程	政治学	H22~H24	710,200	456,200	254,000	254,000	254,000	254,000	508,000	198,000	—	1,200	—	3,000	
		経済学・経営学	H21~H24	707,200	453,200	254,000	254,000	254,000	254,000	508,000	198,000	—	1,200	—	—	
	人 文 科 学	心理学・臨床心理学以外	H21~H24	703,200	448,200	255,000	255,000	255,000	255,000	510,000	190,000	—	1,200	—	2,000	
		心理学・臨床心理学	H23~H24	733,200	478,200	255,000	255,000	* 30,000 285,000	255,000	* 30,000 540,000	190,000	—	1,200	—	2,000	
	自 然 科 学	実 験	H21~H24	955,200	611,200	344,000	344,000	* 70,000 414,000	344,000	* 70,000 758,000	196,000	—	1,200	—	—	
		理 論	H21~H24	885,200	541,200	344,000	344,000	344,000	344,000	688,000	196,000	—	1,200	—	—	
	博士後期課程	法学・政治学	H18~H24	670,200	430,200	240,000	240,000	240,000	240,000	480,000	186,000	—	1,200	—	3,000	
		経済学・経営学	H19~H24	667,200	427,200	240,000	240,000	240,000	240,000	480,000	186,000	—	1,200	—	—	
		人 文 科 学	心理学以外	H18~H24	663,200	423,200	240,000	240,000	240,000	240,000	480,000	180,000	—	1,200	—	2,000
			心理学	H20~H24	693,200	453,200	240,000	240,000	* 30,000 270,000	240,000	* 30,000 510,000	180,000	—	1,200	—	2,000
自 然 科 学		実 験	H20~H24	905,200	580,200	325,000	325,000	* 70,000 395,000	325,000	* 70,000 720,000	184,000	—	1,200	—	—	
		理 論	H20~H24	835,200	510,200	325,000	325,000	325,000	325,000	650,000	184,000	—	1,200	—	—	
専門職大学院	法務研究科	H20~H24	1,301,200	744,200	557,000	557,000	557,000	557,000	1,114,000	186,000	—	1,200	—	—		

※は、第1期徴収分です。 ※は、研究実験費であり、授業料に含まれます。
 大学生については、上記納付金のほかに、桜友会基本会費(永年同窓会費:徴収は1回のみ)35,000円を入学後3年目の学費第1期分にて徴収いたします。ただし、進学者、編入学者、再入学者、外国人学生特別入試入学者については、桜友会が入学手続後または在学中に徴収いたします。桜友会基本会費に関するお問い合わせは、桜友会事務局にご照会願います。
 桜友会事務局 03-3988-3288 学習院目白キャンパス内
 平成25年度の学則改正により、従来の維持費は施設設備費と名称変更いたします。なお、名称変更による徴収金額の変更はありません。



学習院生涯学習センター

2013年度 資格・語学・スキルアップ講座、教養講座のご案内

センターでは、本学学生、ご父母、卒業生の方を含み、広く一般の皆様を対象として、資格試験対策講座や教養講座を開設しています。

■大学在学中こそ、自由な時間を効果的に使い、自分の“付加価値”を高める最大のチャンス!

近年の就職状況は、学生にとって非常に厳しいものとなっています。採用試験では、個人の能力や仕事に対する意識・意欲などを厳しく問われますし、即戦力を求める企業では、大学生が職務経験のある社会人と同じ土俵で採用試験に臨まなければならないケースもあります。自分の能力や意欲の裏付けとなる資格を取ったり、英語や文章力などのスキルを磨いたりする学生が多いのは、そうした流れを敏感に感じ取っているからだと思われます。

■質の高い資格試験・語学・スキルアップ講座を開設

生涯学習センターでは、将来に向け努力する学生やスキルアップを目指すビジネスパーソンを支援するため、民間の資格専門学校や語学学校と提携し、**資格・検定試験対策講座、英語試験対策講座、スキルアップ講座**を開設しています。経験豊富な講師陣が、効率的に学習できる教材を用いて、質の高い授業を提供しており、例年高い成果を上げています。

■経済的負担軽減を強力にバックアップ

外部機関と比べ、**割安な受講料**を設定し、受講生の経済的負担軽減をバックアップ。

さらに、資格講座では、本学の学生を対象とした「**在学生受講料給付制度**」(講座全日程の80%以上出席で、受講料の20%程度を還付)等もあり、断然お得な価格設定となっています。

また、残念ながら試験に合格できなかった方のため、減額された受講料で2度目の受講ができる「**再チャレンジ制度**」(対象指定講座有)もあります。そして、全ての講座が目白キャンパス内で開催されるため、移動の必要がなく、利便性も抜群です。

■募集要項・講座ガイダンス情報を入手

センターでは、今後もニーズの高い講座を積極的に取り上げていく予定です。就活やキャリアアップの一つの手段として、積極的に活用してください。

下の表は、2013年度に開講を予定している資格・英語・スキルアップ講座です。各講座の日程等詳細は、3月上旬から西5号館学生ホール入口スタンド等に設置する募集要項、資料等でご確認ください。また、各講座の概要や資格取得の効用等を分りやすく説明するガイダンスを実施します。開催日時や会場等は、4月中旬以降、校内のポスターや立看板などで告知します。

卒業生・社会人の方は、右記センターまで講座パンフレットをご請求ください。

●2013年度春期(夏期)開設予定 資格・検定・語学・キャリアアップ講座一覧

※春期講座の詳細は、2月中旬に完成する総合パンフレットをご確認ください。

講座名	開講期間(予定)	本試験日
☆宅建主任者総合講座	5月中旬~10月上旬	10月中旬
☆総合・国内旅行業務取扱管理者講座	5月中旬~10月上旬	9・10月上旬
☆2級ファイナンシャル・プランニング技能検定(AFP)講座	6月中旬~ 1月中旬	1月下旬
☆行政書士総合講座	5月中旬~10月下旬	11月上旬
★秘書検定準1級・2級講座	5月中旬~ 6月下旬	6月下旬
☆日商簿記2級講座	5月中旬~11月中旬	11月中旬
☆証券外務員二種資格試験対策講座	5月中旬~ 7月下旬	随時
☆貿易実務講座	5月中旬~ 7月下旬	8月上旬
☆医療事務講座(診療報酬請求事務能力認定試験対応)	5月中旬~ 7月中旬	7月中旬
★マナー・プロトコル検定3級対策講座	6月上旬~ 6月下旬	7月上旬
TOEIC®講座600点達成コース	5月中旬~ 7月上旬	7月中旬
夏期集中TOEIC® Workshop 600	8月上旬~ 8月中旬	8月中旬
夏期集中TOEIC® Workshop 700	8月上旬~ 8月中旬	8月中旬
Success TOEIC®730突破!	5月中旬~ 7月中旬	7月下旬
はじめてのTOEFL®iBTテスト対策講座	5月下旬~ 7月上旬	随時
夏期集中TOEFL®iBTテストスコアアップ講座	8月上旬~ 8月中旬	随時
TOEIC®スコアアップ対策講座	5月中旬~ 7月中旬	-
英語リスニング強化コース	5月中旬~ 7月中旬	-
英語でディスカッション	5月中旬~ 6月中旬	-
大学生実力アップ週間プレゼンテーション能力アップ	8月上旬	-
大学生実力アップ週間コミュニケーション能力アップ	8月上旬	-
就職のためのマスコミ文章講座	5月下旬~ 6月下旬	-

【☆】→在学生受講料給付制度対象講座(予定) 【★】→在学生割引受講料設定講座(予定)

キャリアアップ

サポート

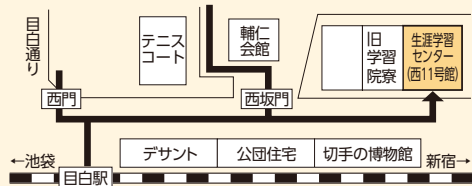
■多種多彩な教養・趣味講座を展開

その他、主に社会人の方を対象とした一般教養講座を開設しています。文学、歴史、芸術、古典芸能、語学、趣味から子育てまで、多彩なプログラムを用意して、ご父母や卒業生の皆様をお待ちしています。ぜひ、生涯学習センターまで足をお運びください。

春講座の詳細は、2月中旬に完成する総合パンフレットをご覧ください。過去1年以内にご請求をいただいている方には、出来上がり次第お送りします。新規にご希望の方は、下記までお気軽にご連絡ください。

◆お問い合わせ・連絡先: 学習院生涯学習センター

Tel 03 (5992) 1040 / Fax 03 (5992) 1124
E-mail: shogaigakushu@gakushuin.ac.jp
URL: <http://open.gakushuin.ac.jp/>



キャリアセンター

4年生・博士前期課程2年生へ

■「進路(就職・進学・その他)決定届」、「就職活動報告書」、「就職活動についてのアンケート」の提出

●「進路決定届」は全員提出が義務づけられています。

就職内定または就職以外の進路が決定している方で上記の届を未だ提出していない方は至急提出してください。「G-Port」から入力送信、または、キャリアセンターカウンターに設置してある用紙に記入しても提出できます。未提出の場合には、企業人事部等からキャリアセンターへ、内定確認及びその他の照会の依頼があっても、正確に答えることができません。また、未提出は、内定後のトラブルに繋がりがかねませんので注意してください。

●「就職活動報告書」「就職活動についてのアンケート」は就職内定者に任意で提出をお願いしています。

就職が内定した方は、「活動報告書」及び「就職活動についてのアンケート」の提出にもぜひ協力をお願いします。

■就職希望者で就職が内定していない学生へ

4年生等の就職希望者でまだ内定を得ていない学生は、速やかにキャリアセンターに相談に来てください。職員が個別に相談にのり、企業の紹介を行っています。積極的に利用してください。

3年生へ

■学内企業説明会 開催

●開催日: 2月12日(火)~25日(月)(除く土日および指定日)

場所・時間等詳細は別途掲示をご覧ください。また内容に変更が生じた場合も随時掲示にてお知らせいたしますのでご確認願います。約150の企業の説明会が学内で開催され、企業担当者の生の声を聞くことが出来る大変有用な機会です。積極的に参加してください。

◆ キャリアセンター資料室の活用 ◆

キャリアセンター資料室は、西5号館4階キャリアセンター事務室に隣接しています。ここには、PC・AVコーナーがあり、就職やキャリアに関する資料・書籍・雑誌等(公務員受験関係の資料も含む)が閲覧できます。ぜひご利用ください。

なお、キャリアセンター資料室の開室時間は、以下の通りです。

平日 8:40 ~ 16:30 土曜日 8:40 ~ 12:00

(HP) <http://ca-gakushuin.jp/>



特集 図書館資料を選定してみませんか?

図書館では、昨年度より学生選書を行っています。日ごろ教職員が行っている図書館資料の選定の一部を、学生のみなさんに担当していただく企画です。興味のある方は、是非参加してみてください。

大学図書館 (Book Hunting!)

開催時期：年2回(5~6月/10月頃)

概要：都内大型書店にて一人数十冊の本を選び、そのうち特におすすめの本について紹介文(POP)を作成していただきます。定員は毎回10名前後です。今まで多くの方の参加があり、学生のみなさんによって選ばれた資料の貸出率はたいへん高く、館内でも人気のコーナーとなっています。

今年度の実施は既に終了していますが、次年度も引き続き開催しますので(次回は2013年5~6月開催予定)、是非ご参加ください。



写真：2012.10.26実施の様様

法経図書センター(学生・院生選書)

開催時期：通年

概要：法経図書センター6階に「学生・院生選書コーナー」を設置し、最新の『ウィークリー出版情報』を置いています。学生・院生ならどなたでも『ウィークリー出版情報』に直接〇印をつけ選書することができます。



〇印を付けていただいたものは法経図書センターの蔵書としてふさわしいかどうか検討後、購入を決めます。購入された図書は、新刊コーナーに展示されます。みなさんも奮って選書にご参加ください。

理学部図書室

理学部図書室は、主に自然科学系の専門資料を所蔵しています。高額な自然科学系の資料を多数購入しているため、残念ながら、予算面で一般書の購入まで手を広げられないのが実情です(学生のリクエストは、専門資料のみを受け付けています)。一般書は、MyGLIM「購入申込」で大学図書館にリクエストする、または大学図書館主催の「BookHunting!」へ参加して選書する、といった方法をご利用ください。

お知らせ

■館内設備の一部をリニューアルしました【大学図書館】

- 1階東側ガラス窓のサッシを、より気密性の高いものに交換し、外から入ってくる砂埃を完全にシャットアウトするよう改良しました。
- 3階のオープンルームとグループ閲覧室の廊下側の壁をガラス張りに改装し、明るく開放的な空間にしました。

■大学図書館セミナーを実施しました【大学図書館】

特定のテーマについて専門家に講演していただく大学図書館セミナー。今年度第2回目は「日本語・漢字の辞書を編む」として、早稲田大学 社会科学総合学術院 笹原宏之教授に辞書編纂の楽しみと苦闘について講演していただきました。普段なかなか触れる機会のない辞書のつくりかたについて、実際に3つの辞書の編纂に携わった先生ならではの現場のお話を伺うことができました。日本語の奥深さや多彩さ、面白さに改めて気づかされた、参加者からもたいへん好評でした。



■春休み期間の7階縮小のお知らせ【法経図書センター】

春季休業期間中は、省エネ対策のため、7階はグループ学習室のみの利用となります。資料閲覧や学習には、3階~6階閲覧席をご利用ください。

■秋のデータベースセミナー【法経図書センター】

授業に役立つように実習を交えた「判例をさがす」と「eol有価証券報告書」を開催しました。特別企画では「Westlaw INTERNATIONAL」の専門スタッフが質問を自由に受付けるレファレンスデスクを設置しました。

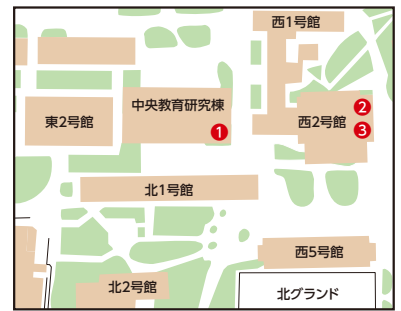


■冬季休業中の長期貸出の返却期限について【大学図書館・法経図書センター・理学部図書室共通】

冬季休業中の長期貸出の返却期限は下記の通りです。
返却期限：1月11日(金)

■春季休業中の長期貸出について【大学図書館・法経図書センター・理学部図書室共通】

春季休業中の長期貸出を下記の日程で行います。
●開始日：1月18日(金) ●返却日：4月15日(月)
※ただし最終学年在籍者の返却日：3月13日(水)



- 案内図
- ① 2階 学生相談室
 - ② 地下1階 保健センター
 - ③ 地下2階 トレーニングルーム

保健センター

平成25年度定期健康診断実施について

定期健康診断を表の日程により実施します。年に一度は健康チェックをしましょう。

注意事項

- 各自持参のTシャツを着衣してください。無地であれば色は問いません。(刺しゅう、プリントなど飾りのないもの)
- 会場で問診票を記入してもらいます。黒のボールペンを持参してください。
- ネックレスははずし、口紅、マニキュアなどは控えてください。
- 頭頂部でまとめた髪型は、身長測定ができませんのでご注意ください。
- メガネ、コンタクトレンズ使用者は、矯正視力を測定します。
- 受診中は携帯電話の電源を切ってください。電磁波の影響により、検査機器が誤作動することがあります。
- 健康診断中の貴重品管理は、個人の責任のもとに行ってください。
- 期間中、指定された日時に受けられない場合は、他学年の日時で受けてください。
- 健康診断で再検査が必要な方には、封書またはG-Portでご連絡します。
- 健康診断の結果は、4月末ごろに受診者全員に通知します。
- 健康診断を受けていない場合や、学年で指定された項目を受けなかったときは、健康診断証明書の発行はできませんので、ご注意ください。

●平成25年度定期健康診断実施日程

日程	4/1(月)	4/2(火)	4/3(水)	4/4(木)	4/5(金)
	男子	女子	男子	女子	午前 女子 / 午後 男子
対象学生	2年生全員 3年生(法・経・文) 4年生全員	2年生全員 4年生全員	1年生 専門職大学院 大学院生 法務研修生 4年生(予備) 法務研究生	1年生 専門職大学院 大学院生 法務研修生 4年生(予備) 法務研究生	午前(女子) 3年生全員 午後(男子) 3年生(理)
	※編入学生、再入学生、転部・転科生は、該当学年で受けてください。 ※学年指定時間に受けられない場合は、期間中、他学年の日時に受けてください。(男性日・女性日に気をつけてください。) ※混雑緩和のため、学部ごとに時間を区切らせていただきます。				
時間	受付 午前8時30分～11時30分 午後1時～3時30分				
順序	①西5号館B1教室集合 ②受付で学生証提示 ③更衣→1F学生ホールへ ④学生ホール→下記の項目を受ける		新入生(学部1年生) 西5号館201・202教室にてガイダンス(新入学生行事日程表参照)		
項目	【4年生・大学院生・専門職大学院】 身長・体重・視力・血圧・胸部X線・内科診察(簡易聴力) 【2・3年生】 身長・体重・血圧・胸部X線・内科診察 【1年生】 身長・体重・血圧・胸部X線・尿検査・内科診察(簡易聴力) ※内科診察時、医師から指示があった場合のみ心電図検査があります。 ※視力測定において、メガネ・コンタクト使用者は、矯正視力を測定いたします。				
摘要	※健康診断を受けるには学生証が必要になります。必ず携帯してください。 ※会場で問診票を記入してもらいます。黒のボールペンを持参してください。 ※ホームページのキャンパスライフ「健康管理」でも案内しています。				

学長室保健センター ☎03-5992-1258

スポーツ・健康科学センター

トレーニングルームの利用について

本学の学生・教職員は講習会に参加すると、どなたでもトレーニングルームを使用することができます。トレーニングルームでは、エアロバイク、筋力トレーニングマシン、フリーウエイトなどを完備しており、測定室では血圧測定や身体測定なども行えます。

また、インストラクターも常駐しており、初心者の方でも安心してご利用いただけます。健康増進・体力向上のために、ぜひご利用ください。

■ 開室時間: 月～土 9:00～20:30(授業期間中)
授業期間以外は、掲示板、またはホームページでご確認ください。

■ 場所: 西2号館地下2階
※地下2階入口では、学生証が必要です。ICカードリーダーに学生証をタッチして入館、退館してください。

※開室時間や講習会のスケジュールは、スポーツ・健康科学センター掲示板、またはホームページ(<http://www.gakushuin.ac.jp/univ/shsc/>)で確認ができます。
※講習会のお申し込みは、トレーニングルーム受付でお願いいたします。



学生相談室

学年末休講・春季休業中の開室日および開室時間について

- 開室日 下記の閉室日を除き、平常通りに開室しています。
 <開室時間> 月～金曜日 9:30～17:00
 土曜日 9:30～12:30
 *図書の貸出等も通常通り

- 閉室日 日曜・祭日
 入試期間 2月6日(水)～2月9日(土)

*ご相談は来室された時になるべく応じるようにしておりますが、予約状況によってはお待たせすることもございます。希望のお時間に確実に相談を受けたい方は、事前に電話にて予約されることをおすすめします。

「保証人サロン」ご案内

大学にお尋ねになりたいこと・気になっていらっしゃるなどを、当室の専任相談員3名と、また、参加された方々で、お茶を飲みながらくつろいで懇談いたしませんか。キャンパスのご見学かたがたでも、お気軽にお立ち寄りください。

お申し込み、費用などは不要ですが、事前のお問い合わせもお受けいたします。

- 月 日 2月23日(土)
 ■時 間 10:00～12:00の時間内に、
 ご自由に入退室いただけます。
 ■場 所 中央教育研究棟 2階 学生相談室

—上記へのご参加・通常の開室時間でのご相談は、本学在籍の学部学生・大学院生の保証人の方に限らせて頂きます。どうぞご了承ください。—

学生相談室 03-3986-0221 内線2514



部会活動予定

本号より、課外活動をより多くの方に伝えることを目的として、各部会の活動予定をお知らせします。

【2013年1月～3月に行われる大会・イベント等】

運動部会

水泳部(競泳部門)

3月3日 第36回関東学生冬季公認記録会(相模原市立総合水泳場)

水泳部(水球部門)

日付未定 東日本水球リーグ戦

漕艇部

1月20日 平成24年度 第25回全国マシローイング大会(戸田オリンピックボートコース)

3月30日、31日 第62回お花見レガッタ(戸田オリンピックボートコース)

スキー部

2月20日～25日 全日本学生スキー選手権大会(岩手八幡平市)

2月26日～
3月2日 全国岩岳学生スキー大会(長野県白馬村)

アイススケート部(フィギュア部門)

1月6日～9日 第85回日本学生氷上競技選手権大会(宇都宮市スケートセンター)

1月13日 2012年度新人戦フィギュアスケート大会(新横浜スケートセンター)

2月15日 第5回バレンタインカップ(シチズンアイススケートリンク)

弓道部

3月16日～31日 新人戦(各大学弓道場)

自転車同好会

1月6日 全日本学生RCS第11戦・埼玉クリテリウム第二ラウンド(埼玉県行田市)

1月27日 全日本学生RCS第12戦・埼玉クリテリウム第三ラウンド(埼玉県行田市)

2月17日 全日本学生RCS最終戦・第七回明治神宮外苑大学クリテリウム(明治神宮外苑)

3月24日 全日本学生RCS・オープン戦・埼玉クリテリウム第四ラウンド(埼玉県行田市)

※RCS:ロードレースカップシリーズの略

文化部会

観世会部

3月3日 甲南・学習院大学定期交歓舞台(鏡仙会能楽研修所)

写真部

2月22日～24日 2月展(池袋ギャラリーK)

書道部

1月19日～24日 第54回東京書道会展 ※入選作品が展示(東京都美術館)

運動部会より

■水泳部(競泳部門)

今大会は、平成25年度関東学生選手権(関東大会)、また日本学生選手権(全国大会)における標準記録(制限タイム)をきるための大会です。12月から6月の間に行われる4回の公認記録大会に出場し、その公認記録で関東大会、全国大会の制限タイムを突破した者のみ、関東大会、全国大会へ出場することができます。今年度競泳部門は、13人の新入部員を迎え、チームとしてのレベルも向上し、四大戦では優勝することができました。また関東学生選手権において「男子4部優勝3部昇格」という成績を収めることができました。日々支援してくださっている皆様のおかげでこのような成績を収めることができたことを部員一同感謝しております。来年度は、関東学生選手権において、個人・リレーで「男子3部優勝2部昇格 女子得点更新」をチーム目標に掲げます。ご声援のほどよろしくお願いいたします。

法学部政治学科3年 渡邊 麻菜美



■漕艇部

全国マシンローイング大会は、毎年11月から2月にかけてエルゴと呼ばれるマシンを使用する、タイムトライアル形式の大会です。漕艇競技に於いて、オフシーズンである冬場に自校の実力、他校の実力の把握、対外的意識の強化を図る貴重な機会となっております。昨年度の同大会では法学科3年の内藤皓文が全国12位の成績を残しました。今年度は体格に恵まれた1年生が入部し、また2年生も昨年度と比べて大きく成長し、好成績が期待できます。ご声援の程、宜しくお願い致します。

お花見レガッタは毎年、春先に行われるシーズン最初の公式レースです。その為、本院漕艇部はシーズンの開幕戦として重要なレースと位置付けています。長い冬場の練習成果を出し、現在の目標である8月の全日本大学選手権へ向けて、シーズンを戦っていく意識の強化を図って参りたいと思います。今年度は、男子舵手付きフォア、女子舵手付きクォドルプルに就いてのノウハウも蓄積し、大きく成長して参りました。このレースで結果を残し、シーズンへの勢いをつけて参りたく思います。

法学部法学科3年 岩下 玲

■スキー部

2月から3月に行われる大会の後、3月28日から31日まで、長野県菅平にて一般合宿を行います。この合宿は、初等科生、中高等科生、女子中高等科生の希望者も参加します。スキーの楽しさを知ってもらうと同時に、級の取得を目指します。

文学部ドイツ語圏文化学科4年 田中 美都

■自転車同好会

自転車同好会にはレース班とツーリング班があります。レース班は1月~3月の間に4つの公式戦があり、日々練習していきます。これらの公式戦は見学自由なので、時間がある方はぜひ会場にいらっしゃって実際に自転車のロードレース競技を一度観戦してみてください。特に2月17日は明治神宮外苑での開催になりますので、足を運びやすいと思います。

文学部哲学科3年
勝又 郁美



文化部会より

■観世会部

私たち観世会部は毎年3月の第1週に兵庫の甲南大学との交歓舞台を行います。この交歓舞台では、私たち学習院が普段舞台で披露している仕舞、素謡に加え、甲南大学の狂言も披露しています。狂言とは昔の人の日常生活の中で巻き起こるコメディのようなものです。言葉遣いはやはり昔の言葉ですが、能と比べ所作、感情表現が多く、能楽にあまり触れたことがない人でも楽しみやすいです。

伝統芸能にあまり馴染みのない方も多いとは思いますが、やはり日本人の血が流れていると、能楽を見る、実際にやることはとても自然なものに思えてきます。年度が始まる前でお忙しい時期とは思いますが、ぜひとも足を運んでいただければと思います。

舞台の最新情報は随時ブログに更新していきますのでよろしくご覧ください。

ブログ:
<http://gakusyuinakanze-kai.blog73.fc2.com/>

写真は舞台の初めに披露する甲南大学との合同素謡「鶴亀」です。

理学部数学科3年
海老原 敦



修了式・卒業式・入学式日程について

◆平成24年度 修了式・卒業式の日程について◆

平成25年3月20日(水)

午前9時30分 開式	●人文科学研究科 ●自然科学研究科 ●文学部 ●理学部
午前11時30分 開式	●法学研究科 ●法務研究科(法科大学院) ●政治学研究科 ●法学部 ●経済学研究科 ●経済学部 ●経営学研究科

●父母保証人の皆さまには、修了式・卒業式の模様をモニターの中継により教室にてご覧いただけます。
●平成24年度卒業生・修了者の発表については、P13に記載しています。

◆平成25年度 入学式の日程について◆

平成25年4月8日(月)

午前9時30分 開式	●法学研究科 ●法務研究科(法科大学院) ●政治学研究科 ●法学部 ●経済学研究科 ●経済学部 ●経営学研究科
午後1時00分 開式	●人文科学研究科 ●自然科学研究科 ●文学部 ●理学部

●父母保証人の皆さまには、入学式の模様をモニターの中継により教室にてご覧いただけます。

平成25年度 学年暦

●法科大学院

4月 1日(月)	オリエンテーション
4月 3日(水) ~ 4日(木)	健康診断
4月 2日(火)	第1学期授業開始
4月 2日(火) ~ 3日(水)	履修登録期間(第1学期)
4月 6日(土)	集中講義日
4月 8日(月)	入学式(学部・大学院・法科大学院合同)
5月15日(水)	大学開学記念日(休講日)
5月14日(火) ~ 16日(木)	履修登録修正期間(第1学期)
7月 2日(火) ~ 15日(月)	授業評価実施(全学)
7月20日(土) ~ 22日(月)	履修登録取消期間(第1学期)
7月22日(月)	第1学期授業終了
7月23日(火)~8月2日(金)・8月5日(月)	学期末試験
8月 6日(火) ~ 9月13日(金) ~ 8月 8日(木)	夏季休業 学期末試験追試験出願期間
9月 2日(月) ~ 4日(水)	成績表交付
9月 6日(金) ~ 12日(木)	学期末試験追試験
9月14日(土)	第2学期授業開始
9月14日(土) ~ 16日(月)	履修登録期間(第2学期)
10月15日(火) ~ 16日(水)	履修登録修正期間(第2学期)
10月17日(木)	開院記念日(休講日)
10月18日(金) ~ 20日(日)	四大学運動競技大会
10月18日(金) ~ 19日(土)	四大学運動競技大会期間中の開講日
11月 1日(金) ~ 5日(火)	大学祭(準備・後片付け含む)
11月 5日(火)	大学祭期間中の開講日
12月10日(火) ~ 23日(月)	授業評価実施(全学)
12月24日(火) ~ 1月 7日(火)	冬季休業
1月 8日(水)	補講日
1月16日(木) ~ 17日(金)	履修登録取消期間(第2学期)
1月17日(金)	第2学期授業終了
1月18日(土) ~ 31日(金) ~ 2月 5日(水)	学年末試験 学年末試験追試験出願期間
2月 1日(土) ~ 3月31日(月)	春季休業
2月22日(土) ~ 28日(金)	学年末試験追試験
3月10日(月)	卒業生・修了者発表
3月10日(月) ~ 12日(水)	1~2年生成績表交付
3月17日(月) ~ 22日(土)	再試験
3月20日(木)	卒業式・修了式(学部・大学院・法科大学院合同)

◎曜日振替
4月2日(火)に月曜日の授業を実施
4月4日(木)に土曜日の授業を実施
◎集中講義日
4月6日(土)

◎休日開講日
【第1学期】
4月29日(月) [昭和の日] →授業日
7月15日(月) [海の日] →授業日
【第2学期】
9月16日(月) [敬老の日] →授業日
9月23日(月) [秋分の日] →授業日
10月14日(月) [体育の日] →授業日
11月23日(土) [勤労感謝の日] →授業日
12月23日(月) [天皇誕生日] →授業日
1月13日(月) [成人の日] →授業日

●学部・大学院

4月 1日(月) ~ 6日(土)	オリエンテーション
4月 1日(月) ~ 5日(金)	健康診断
4月 8日(月)	入学式(学部・大学院・法科大学院合同)
4月 1日(月) ~ 8日(月)	新入生履修指導等
4月 9日(火)	第1学期授業開始
4月 9日(火) ~ 25日(木)	履修登録期間(学部・大学院)
5月14日(火) ~ 16日(木)	履修登録修正期間
5月15日(水)	大学開学記念日(開講日)
7月 2日(火) ~ 15日(月)	授業評価実施(全学)
7月16日(火) ~ 18日(木)	補講期間
7月23日(火) ~ 31日(水)	試験振替期間
7月31日(水)	第1学期授業終了(学期末試験を含む)
8月 1日(木) ~ 9月12日(木) ~ 8月 5日(月)	夏季休業 学期末試験追試験出願期間
9月 6日(金) ~ 12日(木)	学期末試験追試験
9月 2日(月) ~ 12日(木)	集中講義・補講期間(通年科目及び第2学期科目)
9月13日(金)	第2学期授業開始
10月17日(木)	開院記念日(休講日)
10月18日(金) ~ 20日(日)	四大学運動競技大会(休講日)
11月 1日(金) ~ 5日(火)	大学祭(準備・後片付け含む)(休講日)
12月10日(火) ~ 23日(月)	授業評価実施(全学)
12月24日(火) ~ 1月 7日(火)	冬季休業
1月8日(水)・1月15日(水)~17日(金)	補講期間
1月18日(土) ~ 31日(金)	試験振替期間
1月31日(金)	第2学期授業終了(学年末試験を含む)
~ 2月 5日(水)	学年末試験追試験出願期間
2月 1日(土) ~ 3月31日(月)	春季休業
2月22日(土) ~ 28日(金)	学年末試験追試験
3月10日(月)	卒業生・修了者発表
3月20日(木)	卒業式・修了式(学部・大学院・法科大学院合同)
3月24日(月) ~ 26日(水)	1~3年生成績表交付

◎休日開講日

【第1学期】
4月29日(月) [昭和の日] →授業日
5月15日(水) [開学記念日] →授業日
7月15日(月) [海の日] →授業日

【第2学期】
9月16日(月) [敬老の日] →授業日
9月23日(月) [秋分の日] →授業日
10月14日(月) [体育の日] →授業日
11月23日(土) [勤労感謝の日] →授業日
12月23日(月) [天皇誕生日] →授業日

本誌掲載の内容は、変更になる場合があります。最新情報については、学習院大学ホームページにてご確認をお願いします。(http://www.gakushuin.ac.jp/univ/)